

## 今週のメニュー

### [トピックス](#)

大阪産業創造館の「ものづくりセミナー」で講演  
- テーマ：「塩化ビニル利用の実際と将来」で中小企業の支援 -

### [随想](#)

古代ヤマトの遠景（54） - 【倭国の朝鮮半島との関り（2）】 -  
信越化学工業（株） 木下 清隆

### [お知らせ](#)

建築・建材展2011 出展のご案内

### [編集後記](#)

## トピックス

大阪産業創造館の「ものづくりセミナー」で講演  
- テーマ：「塩化ビニル利用の実際と将来」で中小企業の支援 -

2月18日に、大阪経済圏の中小企業の方を対象にしたセミナーが開催され、最近関心の高い塩ビに関する情報提供を行いました。当日は80名を越える方が集まり、2時間のセミナーを熱心に聞かれ、セミナー後にも質疑応答も交えて、個々の企業が抱えている色々な課題の相談に乗らせて頂きました。

お話しを頂いた大阪産業創造館は大阪市経済局の中小・ベンチャー企業支援拠点として2001年1月に開業され、「中小企業の経営力強化」と「創業」を支援し、大阪経済の活性化を目指して活動しています。

今回、「ものづくりセミナー」の一環として塩ビを取り上げた背景には、塩ビが様々な分野に幅広く利用されている素材でありながら、ダイオキシンや環境ホルモンといった安全性やリサイクル性などの環境負荷の問題から、この「塩ビ」に対する様々な情報が錯綜し、正しく理解されないまま、利用を規制する動きもあり、「実際はどのようなのか？」という疑問に答えるべく、その安全性、環境負荷について、客観的なデータに基づいて評価結果と業界の動向を紹介して欲しいとの要望がありました。

講演では、「汎用プラスチックの中での塩ビの位置付け」、「塩ビの需要とその推移」、「過去の環境問題の誤解とその背景」、「塩ビの環境性能と特徴」、「塩ビを取り巻く今後の動向」、「日本のモノ作りへの提言」について、外部のデータで客観的に説明し、塩ビ関連団体と共催で進めている「塩ビものづくりコンテスト2011」を事例に、日本のモノ作りの大切さを語りました。



後日、主催者から当日のアンケートのまとめを送って頂きました。それによれば、当日参加された方の約80%が製造業・卸売業で、塩ビ関連の仕事をしている方が約60%居

られました。講演の内容について、約 95%の方が満足され、説明した資料が役に立つと言  
って頂きました。元々塩ビを扱っておられた方で、塩ビの復帰を願っていた様子でした。  
更に詳しく、塩ビの使用状況と今後の見通しを聞きたいという方も多かったと思います。

これまでも、関西では、昨年 5 月 19 日に開催された関西ビニール卸協同組合の第 50  
期定時総会の懇談会、同 8 月 10 日に大阪ファイルバインダー協会のお招きで、「塩ビを巡  
る最近の動向 - 塩ビの復権を目指して - 」のテーマで講演をさせて頂きました。また、今  
年 1 月 21 日にも、西日本プラスチック製品加工協同組合の新年会で「日本の位置づけと今  
後の展開」のテーマで塩ビ産業のものづくりについて講演を行いました。

どの講演会でも、中立性を意識して話を進めています。塩ビに対する誤った理解を解く  
とともに、塩ビの良さも短所も含めた特徴に触れています。素材を性能やコストを考慮し  
て自由に選択し、その特徴を活かしてより良い製品をつくるのが本来のものづくりと考  
えています。今回のセミナーでの講演を通じて、「塩ビ」に対する誤解が解け、むしろ環境  
性能やリサイクル性にも優れていることが理解頂けたことが良かったと思っています。今  
後も、このような機会があれば、是非、お話をさせて頂き、一緒に塩ビの世界を広げてい  
きたいと願っています。(了)

## 随想

### 古代ヤマトの遠景 ( 5 4 ) - 【倭国の朝鮮半島との関り ( 2 )】 -

信越化学工業 ( 株 ) 木下 清隆

#### <七支刀問題>

日本書紀の神功皇后五十二年条に、百濟より「七支刀」  
がもたらされたことが記されている。古代学はこの五  
十二年を 372 年と対応付けているので、ここではこの  
説に従うことにする。この百濟の七支刀は奈良県天理  
市にある石上<sup>いそのかみ</sup>神宮に現在も保管されていることから、  
五十二年条は史実と考えることが出来る。ただ、日本  
書紀の神功皇后紀には百濟・新羅関係の記事がかなり  
集中的に記載されており、その論調はしばしば朝貢し  
てくる服属国の扱いで描かれている。この七支刀も百  
濟が倭国から恩を受けたのでその返礼として献上され  
たものである、といった内容になっている。

ここに出てくる石上神宮は、現在の天理市に在る。  
天理教本部の直ぐ近くである。古代の大和地方には当  
然武器庫があった。当初は大神神社の近くおおみわの桜井の地  
にあったが、その後、天理へ移されたことが垂仁天皇  
紀に出てくる。祭神は布都御魂大神ふつのみたまとなっているが、  
この神は布都御魂剣に宿る神霊とされており、要する  
に剣が祭神とされている。また、この武器庫の管理を任されたのが物部氏の一族とされて  
いる。



石上神宮 鳥居



鳥居の額  
「布都御魂大神」

楼門



七支刀が百済からもたらされた理由は、書紀によれば以上のように理解されていたことになるが、当時の百済は、先にも述べたように馬韓統一間もない頃で、大国高句麗との国の存亡を賭けた戦いに突入する前夜である。その百済が倭国に七支刀以前に何度も朝貢して来るなど考えられないことであり、何故このような記述が残されたのかは、興味ある問題である。この神功皇后紀が編述されたのが7世紀頃と考えられるところから、かつての倭国が半島において大きな影響力を有していたとの記録を、優越的に過大に表現したものといえよう。



石上神宮 拝殿

七支刀が倭国にもたらされた年を372年とすると、実はその前年の371年に百済は、高句麗を攻め、高句麗故国原王を戦死させている。これ以降、百済は高句麗に徹底的に攻撃されることになる。このような状況を考慮すると、故国原王を戦死させた後の高句麗の反撃を恐れた百済が、倭国に近づいたとするのは無理のない解釈といえよう。しかし、ここで新たな疑問が出てくる。それは何故彼らが倭国を選んだのかである。彼らはそれ以前に倭国と直接的に戦った経験はない。しかし、彼らは倭兵の強さを十分に知っていた。そうでなければ、わざわざ海を渡って、しかも七支刀という極めて鍛造の難しい刀を製作してまで倭国を訪れた理由の説明がつかないからである。そこで、その理由として浮かび上がってくるのが、369年の金官伽耶への倭国の支援軍である。このとき倭国軍は新羅と戦い十分にその強さを発揮したものと考えられる。この戦闘を目の当たりにしていた百済は、いずれ倭国に協力を求める日が来るかもしれないと見ていたのかもしれない。

先に金官伽耶への支援軍派遣を、一つの仮説として導入したが、これは新羅と対峙している金官伽耶の立場、倭国に近づいた百済、結果的に統一国家を作らなかった弁韓といった諸問題を無理なく解釈するための、どうしても必要となった仮説だといえよう。そのような意味での仮説に対し、神功皇后四十九年条にこれを支持するような記述があることから、その時期が369年と特定されてきたということである。369年が正しいのかどうかは分からないが、一応これが正しいと仮定すると七支刀問題とうまくつながるという意味で、金官伽耶支援はこの頃だったと想定することはできよう。

372年、百済は七支刀を手土産に倭国を訪れた。これが倭国と百済との最初の出会いである。以後両国は、663年に白村江で倭国軍が唐・新羅連合軍に大敗するまでその関係は続くことになる。約300年間も続いた両国の友好関係の礎となったのは、372年に取り交わされた軍事同盟だったと考えられる。この中には、新羅が伽耶を攻めたとき、百済は任那の倭軍を支援する。百済の沿岸を航海する倭国の船の安全を保障するといった条項が含まれていたはずである。このような条項はこれを受入れないとき、百済は反対の行動をとることが暗示されていることになり、これは一種の恫喝条項である。倭国はこれに応じた。

以後、倭国は激動の半島情勢に深く巻き込まれてゆくことになる。その状況が、「広開土王碑」に刻まれている。

(つづく)

## お知らせ

### 建築・建材展2011 出展のご案内

快適、健康、安全・安心な住環境、商環境の実現をめざした、住宅建材、店舗建材、ビル建材や設備機器など、建材・関連製品が一堂に集まり、活発な情報発信を行う総合展示会、建築・建材展が以下の通り開催されています。

塩ビ工業・環境協会は、「一般建材・関連製品ゾーン」に出展しています。

- ・日 時 : 2011年3月8日(火)～3月11日(金)  
10:00～17:00(最終日のみ16:30終了)
- ・場 所 : 東京ビッグサイト 東6ホール  
(ブースNo. AC5128)
- ・主 催 : 日本経済新聞社
- ・入場料 : 当日一般 1,500円
- ・[建築・建材展2011](#)のホームページをご覧ください。

## 編集後記

先週は新青森 東京間を3時間10分で走る東北新幹線新型車両『はやぶさ』が運行開始し、今週末には薩摩っ子が待ちに待った九州新幹線が全面開通します。先日久しぶりに帰鹿したら新燃岳と桜島の火山灰に迎えられながら、新幹線歓迎ムードの中、速さ順の列車名が「みずほ」「さくら」「つばめ」となっていて、イメージと逆ではないかとの話を耳にしました。多くの鉄道ファンも東海道・山陽新幹線相当で考えると

「つばめ」=「のぞみ」(遅) 「さくら」=「ひかり」(遅) 「みずほ」=「こだま」の方がピッタリでいいと思っています。

個人的には、今更の感は否めませんが、『はやぶさ』の名称は九州新幹線に取っおいて欲しかったと思っています。しかし、将来は車中泊出来る夜行新幹線を創設し、昔の寝台特急「はやぶさ」が青森から鹿児島までの寝台列車として復活したら良いなどの思いを【塩ビ物づくり】の復活に重ね合わせてしまいました。...いろいろな事情があるのだとは思いますが。(薩弘)

## 関連リンク

[メールマガジンバックナンバー](#)

[メールマガジン登録](#)、[メールマガジン解除](#)



編集責任者 事務局長 東 幸次

東京都中央区新川 1-4-1

TEL 03-3297-5601 FAX 03-3297-5783

URL <http://www.vec.gr.jp> E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)